

長畝ふるさと通信

【2012年12月号】

■ ふるさと「長畝」の四季折々 <冬から夏>

●1月15日「とうらやさん」……ご近所さんが集まって、無病息災・五穀豊穰を祈ります。集落のあちこちから煙が上がり、「おっ、始まったな。うちらも始めるか」。雪がちらつく寒い中、次第に体も温まります。火が熾きになるとおもちゃスルメイカなどを竹の先に引っかけて焼きます。お酒も進み会話も弾む、昔話に花が咲き、いつの間にやら辺りは薄暗くなってきます。最後には身の丈ほどの竹の先を焼き、家の門先に立ててお守りにします。



●冬景色……冬の田んぼはとても静かです。朝日が昇ると積もった雪が凍って氷の結晶がキラキラ光っています。空気も澄み切ってとても綺麗。散歩が楽しい季節です。

●4月15日「祭礼」

年に一度のお祭りです。神社の入り口へのぼりを立て、青年会の兄ちゃん達が伝統芸能「鬼太鼓」を門付けして回ります。朝の5時から夜中まで集落中に太鼓が鳴り響き、飲み歩きます。年々老いを感じる楽しい日です。



のぼり立ては大勢の力を合わせて一気に立てる

●5月は総出で田植え……代かきを終え、田植えを待つ田んぼ。水を満々と湛えた田んぼは



お日さまの光を反射して鏡のようになり、周りの風景を映し出してくれます。この時期になるとカエルたちが一斉に鳴きだして賑やかになっていきます。

金北山にはまだ残雪が見えますが、まわりの景色は新緑が鮮やかになってきています。紫外線も強くなり、田植えが終わる頃には顔は日焼けで真っ黒です。



●6月にはトキのヒナも誕生……38年ぶりにトキのヒナが巣立っていきました。現在でも8羽



のヒナは順調に育っており、親鳥との区別もつかないくらい大きくなりました。今では集落のあちこちから頻繁にトキを見ることができるようになりました。



●夏は緑の絨毯と青空のコンビネーションが Good !



●子供達と生きもの調査の日

6月と8月は全島一斉「生きもの調査の日」です。子供達も大勢参加して、田んぼの生きものたちとふれあっています。そういえば、いつかご紹介した「サドガエル」が正式に佐渡の固有種として認められました。子供達も大切な佐渡の固有種ですけど……

■ 農業を守りたい！



2枚の写真は同じ日に撮影した柿園地の様子です。左の園地は高齢などの理由で、摘果作業（実を大きくするために、なった実を間引く作業）ができず（ご覧の通りひとつの枝に小さな実が固まってついたため、その重みで枝ごと折れてしまっています）、収穫さえできないまま放置された園地です。右側の園地は無事収穫が終わり、来年のために枝の剪定作業（実が均等に結実するように枝をすかす作業）までしている園地です。

田んぼは生産組合があるため、耕作放棄地はひとつもありませんが、おけさ柿の園地は年々こうした状況が目立ち始めました。特に収穫作業は時期が重なるため、他の生産者も援助する余裕がありません。柿の栽培は1年中作業があり、近年では価格も下落しているので後継者が育っていません。稲作のように機械化もままならないので、高齢者にはきつい仕事です。このままではいずれ無くなってしまいます。

日本は超高齢化社会を迎えました。特に農業では深刻な問題です。政権が変わっても状況は変わりません。これからは生産者も消費者も一緒になって農業を守らなければなりません。お力をお貸し下さい！

■ 良いお年をお迎え下さい

会員の皆様、今年も1年ありがとうございました。感謝を込めて些少ではございますが組合の特産品をお送りいたします。年越しのごちそうにお使い下さい。

来年も宜しく願いいたします。

長畝生産組合 組合員一同

